

校長室だより

共学共高

第
25
号

令和4年5月16日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

1年生の授業から～part3

5月11日(水) 英語科I先生の1年8組における「英語コミュニケーションI」の授業及び1年9組担任のN先生による「総合的な探究の時間」の授業にお邪魔した。

まずは、I先生の授業である。チャイムと共に始まり、「お願いします」と生徒たちがあいさつをする。I先生も負けないくらいの声量であいさつをする。I先生が英語で「教科書の12ページ、13ページを開いてください」と言う。まずは、ペアによるリーディングである。二人でジャンケンをして、勝った方から英語で読む。ピリオドが来たところで相手に代わる。これを繰り返して最後までペアリーディングを行う。テーマは、「Every second counts in fight to preserve our planet」である。地球環境保護に関わるものであるようだ。ペアリーディングが終わると、I先生がホワイトボードに板書した数字や単語を示して、読み方を確認し、生徒全員が声をそろえて発音する。これは生徒たちがペアリーディングしている間に教室内を巡回し、その際に生徒たちが発音しづらそうにしていたものを拾い上げたものだ。例えば、「4.2、1.8、0.3、2,540、produce、products、percent、air to breathe、organize-organizing、Fortunately、fortune、fortunate」などを一つ一つ確認していく。続いて、最終段落をコーラスリーディング(全員で声をそろえて読む)して、本文の導入が終わる。

次に、文法の学習である。生徒たちはiPadを開いて、予め配信されていた課題にアクセスする。すでに予習を済ませてきているのだ。簡単に第3文型(主語S+述語V+目的語O)の復習から入る。「give O2 to O1 (O1にO2を与える)、buy O2 for O1 (O1にO2を買う)」I先生は、前置詞にtoと使うか、forを使うかは動詞によって決まります」と説明する。ここで、I先生がクラスに投げかける。「どういう動詞のときにtoを使い、どういう動詞のときにforを使うのでしょうか?」・・・どうやら、「～に向かってすること」がto、「～のためにすること」がforとなるようだ。

続いて第4文型(S+V+O+O)に入る。I先生が生徒を一人ずつ指名して、英文を読ませ、S,V,O,Oがどの単語であるかを言わせる。例えば、They gave me a chance. (彼らは私にチャンスを与えてくれた)であれば、TheyがS、gaveがV、meがO、a chanceがOとなる。このとき、I先生は2つのOを区別して、前者をOニ、後者をOヲと板書していたのがわかりやすい。つまり、OニOヲ(～に・・・を〇〇する)という訳に繋がるのだ。

さらに、第4文型の英文を第3文型英文に直すペアワークが始まる。例えば、「Mr.Ikeda showed us his diary.」であれば、「Mr.Ikeda showed his diary to us.」となる。この場合は、私たちに向かって見せるのだから to を使うことになるのだ。こうした類題をペアワークの後に、指名された生徒が発表していく。

さらに、第5文型の学習に入り、提示された英文の S,V,O,C を生徒たちが答えていく。その後、否定文の作り方や疑問文の作り方をペアワークでチェックしながら、テンポよく授業が進んでいく。疑問文のところで、「What did you do yesterday?」が出てくると、you が S、do が V、What が O となる。ここでの yesterday は修飾語（副詞）の扱いとなる。すると、生徒から質問が出された。「What などが出てきたら、必ず目的語（O）になるのですか?」I先生は「そうとは限らないです。」と言って、Who が主語（S）になる例や How が修飾語（副詞）になる例を提示した。遠慮なく質問ができるのは、いいことである。こうして授業があつという間に終わった。生徒たちは高い集中力をもって、意欲的に参加していた。関連する演習問題は予め別に渡されているとのことだが、自学自習でしっかりと取り組めば、正しい文法が定着するはずである。



続いて、1年9組担任N先生の「総合的な探究の時間」の授業である。チャイムと共に始まり、生徒たちが「お願いします」とあいさつをする。N先生が「前回何をやったか、ペアで確認してください」と投げかける。生徒たちはすぐに対話によって確認を始める。しばらくして、N先生が、「前は個人で気になることをあげて、グループで出し合い、それをマインドマップにしていきました。いろいろな人とアイデアを出す練習をしましたね」とまとめる。生徒たちは、iPad内に取められたマインドマップを確認する。中央にある「気になること」は、人間、青春、文化・・・などさまざまである。N先生がこれからの見通しを伝える。「自由に連想したもらったものから、仮テーマを設定して調べていくことをします」ワークシートのタイトルは「テーマから問いへ」だ。マインドマップで書き留めたものを参考にして、一つ仮テーマを設定。そのテーマに関する資料を探してみる。そして、疑問に思ったことをより深く掘り下げてみる、ということだ。「テーマに関わる本を図書室から

借りてきます。6月になったら、その内容をまとめて発表しましょう」と語りかける。「テーマは、～について、～か?といった設定でよいです。テーマとそれを選んだ理由を書いてみましょう」・・・生徒たちは各自で黙々とiPad上で記入していく。記入したものがクラス全員分、正面のホワイトボード上に同時進行で映し出されていく。仮テーマには、感情をコントロールするには?、友達について、魔法について、ジェンダーについて、LGBTQについて、などさまざま記入されていく。

その後は、ペアワークである。テーマとそれを設定した理由をお互いに確認し合う。私はMさんとペアワークをすることにした。Mさんのテーマは「恋愛について」、私がいくつかの質問をする。私「どうしてそのテーマを選んだのですか?」Mさん「奥が深いと思ったからです」私「どういう意味で奥が深いと思ったのですか?」Mさん「異性だけではなく、同性間の恋愛もあるし、物との恋愛もあり得るからです」私「物ですか?」Mさん「はい、例えば、ぬいぐるみです」私「なるほど。そうすると、恋愛は人間同士だけではなく、人間と物、人間と動物などでも成立する可能性があるということですね。深いですね。」Mさん「校長先生は、何を設定しましたか?」私「人のやる気はどうやって湧いてくるのか?ですね」・・・

やはり対話は新たな気づきを生むものだと感じさせられた。

N先生が「それでは白梅学園高校・清修中高一貫部図書館 検索システムを使って、テーマに関連する単語を入力して、新書で検索をかけてください」と伝える。なかなかいいシステムがあるではないか。生徒たちも検索して目安をつけたら、全員で図書館へ移動する。図書館でお目当ての新書を選んだら、貸し出し手続きを終えて、授業終了である。ちなみに、私は『勉強する気はなぜ起こらないのか 外山美樹著 ちくまプリマー新書』を借りることにした。(6月に1年9組で発表することは避けたい、と密かに怯えている)

本校の「探究」は、このN先生が直接の担当となって、教育研究部の中で練りながら、年間計画を作成してくれたものである。これがどのように花咲くのか、楽しみである。生徒たちが課題を見付け、仮説を設定し、それを検証して一定の結論へと導く、新学習指導要領で求められている探究的な学びそのものであり、やがて学問探究や社会生活にも繋がっていくものである。



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す）